

国語

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それからあまり行かないうちに、ねこが一匹き、^{おうらい}往来にすわりこんだまま、それこそ三日も雨をくったような顔どこやをしていました。

「やあ、どうしたい、床屋の親方、どうやらおひげの手入どころではないという顔つきだが。」と、ろばはいいました。

「いのちとかえがけというところだ。けいきのいい(1)顔(1)をしてもいられまい。なにしろ年をとって来てね、歯はばくばくになる、ねずみのやつをおいまわすよりか、ろばたで香箱こうばこつくって、ごろにゃん、ごろにゃん、のどをならしていたくなるさ。そこで、主人のかみさんが、いっそ水にはめておしまいよといいだした。そうされないうちに、(2)とびだしては来たが、さていい思案しあんはないしさ、いったいどこへどう行ったものかと、あぐねているのだよ。」と、ねこはいいました。

「おれたちとなかまで、^{がくたい}ブレーメンの町へ行けよ。おまえさんは、夜の音楽ならお手のものだろう、町の楽隊につかってもらえるぜ。」と、ろばはいいました。

ねこは、さっそくさんせいして、いっしょに出かけました。

問1 ——線(1)「顔」について、次の文の意味を表す慣用句かんようくをア～ウの中からえらびなさい。

わたしのおとうさんはとても知り合いが多い。

ア 顔から火が出る イ 顔が広い ウ 顔をしかめる

問2 ——線(2)とありますが、ねこがとびだして来たのはどんな気持ちからですか。もっともふさわしいものをア～エの中からえらびなさい。

ア うれしい イ たのしみ
ウ おそろしい エ めんどくさい

問3 この文章のねこはどのようなねこですか。もっともふさわしいものをア～エの中からえらびなさい。

ア わかくて、元気いっぱい
イ 年をとっているが、とても頭のいい
ウ 年をとっていて、元気もあまりない
エ わかくて、音楽のさいのうがある



国語

(解答) 問1 イ 問2 ウ 問3 ウ

(解説)

問1 ある決まった意味を持つことばを「慣用句」といいます。「顔から火が出る」とは、はずかしくて顔が真っ赤になること、「顔が広い」とは、知り合いが多いこと、「顔をしかめる」とは、いやなことなどがあって、ふきげんそうな顔をすることです。

問2 気持ちを読み取る問題です。気持ちを読み取るには、——線の中の登場人物の行動や会話、そして、その前後の「出来事」をしっかり読みましょう。この問題では、ねこの会話に注目すると、直前に「主人のかみさんが、いっそ水にはめておしまいよといただきました。そうされないうちに」とあります。つまり、ねこは「水にしずめられてしまう前に、にげて来た」のですから、そのようなときの気持ちは「おそろしい」がふさわしいですね。

問3 文章全体から、ねこの様子を読みとりましょう。まず、6行目に「年をとって」とあるので、イかウのどちらかが正しい答えですね。次に、このねこは、「ねずみのやつをおいまわすよりか、ろばたで香箱こうばこつくって、ごろにゃん、ごろにゃん、のどをならしていたくなるさ。」と言っています。ねずみをおいかけるのもいやになっているのですから、「元気がある」とは言えません。また、「いい思案はないしさ、いったいどこへどう行ったものかと、あぐねているのだ」とあり、3日間も何もできずにいますから、とても頭がいいとはいえません。よって、正しい答えはウになります。

